

# 藤間秋男の 100年企業創りレポート

●今月の経営テーマ「報告・連絡・相談・確認を徹底しよう！」

報告・連絡・相談・確認を徹底することで次のようなメリットがあります。

- ①仕事の無駄が減少します
- ②より仕事を進めやすくなります
- ③正しい判断ができるようになります
- ④仕事の生産性が向上します
- ⑤周りからの信頼が高まります

2019.05  
VOL.252  
SINCE1998



株式会社コスモ教育出版『理念と経営』カレンダーより

(1) 松下幸三且カ歴史館に行きました。(大阪門真  
朝9時入って、5時間たっぷり。誕生から起業、成長、社会貢献、  
老後までの歴史と時々のすばらしい発言を見て、時には  
感激し、時には泣いて、自分を反省してました。

①弱みを隠した。②学歴(小学校4年中退。当時は小学校は義務教育が有りか  
出会い、あつたの出来事が学歴という強みに変わった。③家が貧しかったから必死に  
働くことができた。④体が弱かったから無理しないで人に任せ  
人と育つことができた。(超プラス発想)

②成工カとは成カ好まで続けること。辛抱に根気よく努力続け  
いると、周囲の情勢も変わって成功への道が開けてくる。

- ③(36歳) 企業は社会の公器。共存共栄でなければ真の発展・繁栄はありえない。
- ④(37歳) 使命を知る。産業人の使命は物心共に栄え、衆士の建設。
- ⑤(38歳) 事業部制の導入。それほど大きな力を持たなくても、あつたをひとりの  
仕事に集中してやっていく存在が他に負けない成果を生み出すことができる。
- ⑥(40歳) 海外への事業展開。高社に頼るより輸出、業界に先駆けて貿易会社を設立。
- ⑦(42歳～) ①戦時下 ②戦後直後の苦難(会社解体の危機  
税金滞納王) ③PHP(繁栄と平和と幸福)を研究に着手
- ⑧(56歳～) ①私心で始めたものではありません。フリックス社の技術提携  
②大衆との「見えない契約」。この計画はわがわがの課せられた大衆の要望の数字  
③「Panasonic」の誕生。(Nationalはアメリカで商標登録されていた)
- ⑨日本の先駆者として週休2日制導入(1日教養、1日休養) 70歳  
自分の教養を高めるとか、自分の技術を向上させるとか、あるいは健康を考えた  
つくるというよりは、自分を育てるためのカリカ、社会の一員としての共通義務。
- ⑩たまには社会貢献 ①浅草雷門の再建、大阪万博、松下政経塾

⑥『人間を考へる』を上梓(PHP研究の成果)「宇宙にひそむ偉大  
なる力を開発し、万物に与えられたるそのものの本質を見出しなかつた  
二の生かし活用することにより、物心一如の真の繁栄を生み出す  
ことが出来る」と人間の力を讃え、知恵の緩和である「衆士の  
こそが、真の繁栄実現の鍵を握る。

⑩永眠(94歳) 9歳で高い世界に入り、23歳で創業を果たし  
37歳で「衆士の建設」という使命を知ると、事業家として、  
さらには社会活動家、思想家として、その実業を追求し続ける人生。  
TOMAが今この場所で200名の総合コンサルタントグループが  
できているのは、松下幸三且カと人のよかけです  
「経営理念の確立と浸透をすれば50%成工カ。社員が生産性  
と働く環境をつくれば30%成工カ」を松下幸三且カの弟子の  
木野先生が聞いた。それを実行して今があります。  
是非是非行ってみて下さい。学びがたくさんあります。

①～⑩ 冊子「松下幸三且カ歴史館(パナソニックミュージアム松下幸三且カ歴史館刊)

(2) 経営心理士講座を学びはじめました。藤田耕司士という  
若手の公認会計士が講師(学生の時から心理学を学びはじめた)。  
人の心の理解を深め、ビジネスの可能性と自らの可能性を  
引き上げる。同業者が積極的に参加しているのでもコースで  
参加しました。すばらしい学びがありました。経営者や経営  
幹部は参加した方がよいと思いました。

- ①1000件超の経営相談を受けて感じたのは、数字の良い会社は人の心を  
掴み、数字の悪い会社は人の心が掴めない。人の心を掴む  
努力をしなければならぬ。
- ②ビジネスとはお客様上司、部下、外部パートナーと  
win-winの関係を創り業績を上げること。そのために相手と説得  
し、相手を動かすことが必要 ①お客様-商品を買い、いただく  
②上司-意見を受け入れてもらう、高く評価してもらう ③部下-モチベーション  
高く言う通りに仕事をしてくれる ④外部パートナー-お互いの力を補い、合  
成果を出す。(徳がある信頼性がないと説得できません。努力は  
必要)
- ③説得の3要素(アリストテレス)
- ④エトス-話し手の徳:信頼性、話し手は相手から信頼を得る必要
- ⑤ロゴス-ロジック、論理-話し手は論理的に議論を展開

